



初張

特別  
A5  
6673  
75  
早稲田大学図書館



安永六丁酉天



祝晨

市中より市中の屋敷  
ゆるりたるありしを  
つわりのいさやうとな  
さのききしやうの  
あはれ

風名坊

暮東

糸茶巾

店主人の次

丁あての紙

茶巾

似合しうの糸茶巾の  
玉を画よんがたせたりハ

書物や強きものうら

羽衣

とろ糸巾はさねる時ほりき

是釣

柄はくいらくはりたは

扇柱

おきうし磨身同北は

御手

ゆるりたる金の掛下

糸茶巾すらすらと

茶仙

糸茶巾の糸茶巾

御手

糸茶巾の糸茶巾

はし

僧



除之能此くさかたをうらに

取き居るく我と雲く

風在坊

空も動田の階きたれむくさかの月

池もいもさ猶まよの言まを移り

風在

校川此も不ぬまはらり水多

呂翔

入りて其更の片くはるく

鳥桂

月之夜とあつての夜もあ

羽五

仲人よ居も何をかゝる小

世般

はさり除地を水く

山のみ 是物

ちさの初ハ 穂民おれ斗

在兜

口けもあ心老く根さい華さいひは

臨公

網子よ々さるる布とるぬる居り

柳二

まろくくむのまをぬめはりのるを

まの他

さくくくさひさ居り 網時

物托

小之傳最太之傳最もことさるる笑

宗川

判せささひの子さすけり

中在

右経音初二順

佐々木あつとく日影の尾城下

よりあつたまをききとりのあつと

あつたまのまをききとりのあつと

あつたまのまをききとりのあつと

あつたまのまをききとりのあつと

あつたまのまをききとりのあつと

あつたまのまをききとりのあつと

あつたまのまをききとりのあつと

卒年

あつたまのまをききとりのあつと

あつたまのまをききとりのあつと

あつたまのまをききとりのあつと

あつたまのまをききとりのあつと

あつたまのまをききとりのあつと

